

令和8年度 第1回 神奈川県立伊勢原高等学校 学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和8年6月25日(木) 15:00～16:30

2 場 所 本校図書室

3 参加者(委員5名)

鈴木 宗武 様(伊勢原市立山王中学校長)

成川 忠之 様(東海大学経営学部 教授)

平田 哲也 様(伊勢原北地区青少年健全育成協議会青少年指導員)

成田 和吉 様(田中自治会長)

澤田 裕 (伊勢原高等学校長)

(本校職員12名)

○ 管理職 橋本副校長、小俣全日制教頭、宮本定時制教頭

○ GL 石井(学務)、美馬(キャリア支援)、川井(生徒支援)、
金森(学校管理)、井上渉(生徒指導)、斉藤英(研究渉外)、
中尾(定カリ／支援)、高橋(定生・保／管理)

○ 記録者 廣澤(研究渉外)

4 概 要

第一部 全体会、学校運営協議会・学校評価部会【15:00～16:00】

1 校長挨拶

- ・今年度の学校経営の方向性と生徒の状況について挨拶。
- ・今年度は全日制752名、定時制32名の計784名でスタート。
- ・生徒一人ひとりのペースを大切にしながら活動していることを報告。

2 委員委嘱 及び 委員・職員 自己紹介

3 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)について

- ・今年度の学校経営の方向性と生徒の状況について挨拶
- ・今年度より新たに「業務改善(教職員の働き方改革)」に関する事項が協議対象に加わった。
- ・地域と学校がパートナーとして目標を共有し、より良い学校運営を目指す方針を確認。

4 令和7年度 学校評価(実施結果)について

【全日制】

(1)教育課程・学習指導

- ① **成果**: ICT利活用授業研究推進校として、公開研究授業の実施やAI活用に関する研修を行い、生徒の授業評価(項目3.2)の目標値を達成。
- ② **課題**: 学習の質や進め方について、生徒への丁寧な対応が引き続き求められている。また、ICTとアナログ(ノート等)のバランスを考慮した効果的な活用方法を検討する必要がある。

(2)生徒指導・支援

- ① **成果**: ア 行事や部活動において生徒が主体的に活動し、多くの生徒が自己肯定感を高めることができた。
イ スクールカウンセラー(SC)やソーシャルワーカー(SSW)を活用した**早期の問題発見・組織的対応**が行われた。
- ② **課題**: 優しい生徒が多い反面、自己解決力の育成に向けたさらなる支援が課題となっている。

(3)進路指導・支援

- ① **成果**: ア 大学進学者が増加(130名)し、指定校推薦や総合型選抜への対応として外部機関と連携した対策を実施。
イ キャリア教育計画の周知により、早期の目標設定を促した。
- ② **課題**: 入試制度の多様化・変化が早いため、情報収集と生徒への迅速な共有体制をさらに強化する必要がある。

(4)地域等との協働

- ① **成果**: 清掃活動やボランティア、学校説明会への積極的な参加(志願倍率は目標達成)により、地域からの信頼を高めた。
- ② **課題**: ホームページの更新頻度を高め、部活動実績などの情報をよりタイムリーに発信することが求められている。

(5)学校管理・学校運営

- ① **成果**: **不祥事・事故ゼロ**を継続。ICTを活用したペーパーレス化や業務のスマート化が促進。
- ② **課題**: 防災教育において、地域との連携や避難所としての機能確認など、実効性のある訓練の継続が必要。

【定時制】

(1)教育課程・学習指導

- ① 成果: ア チームティーチングや個別指導の導入により、生徒の理解度に応じた授業を展開。
イ 電子黒板の導入により、視覚的な理解が深まり生徒の意欲が向上。
- ② 課題:さらなるICTの効果的な活用ノウハウの共有と、基礎学力の醸成に向けた工夫が課題。

(2)生徒指導・支援

- ① 成果: ア 学校行事への参加率が非常に高く(新入生歓迎会100%近く、体育祭87%など)、生徒の社会性が向上。
イ 家庭との緊密な連携により、欠席・遅刻回数が前年度より減少。
- ② 課題: コミュニケーション能力が不足している生徒に対し、友人関係の構築を支援する体制を継続する。

(3)進路指導・支援

- ① 成果: 大学(3名)、短大(1名)、専門学校(3名)、就職(1名)など、自身の希望に沿った進路を決定。
- ② 課題: 早期からの進路意識の醸成と、個々の適性に合わせたきめ細かな情報提供を継続。

(4)地域等との協働

- ① 成果: ボードゲーム部による放課後デイサービスへのボランティア訪問が評価され、県から表彰を受けた。
- ② 課題: ホームページ等を通じて、定時制ならではの魅力ある活動をより広く発信していく。

(5)学校管理・学校運営

- ① 成果: ア 月例の不祥事防止研修により、職員の意識を高く保った。
イ 防災教育(DIG訓練)を通じて、生徒の防災意識が向上した。
- ② 課題: 組織的なチェック体制を形骸化させず、風通しの良い職場づくりを継続する。

4 伊勢原高等学校ランドデザインについて

スクールミッション、学校教育目標「社会に貢献できる自立した大人の育成」などを目標に、以下の重点施策を設定。

(1) 全日制

ア グラデュエーション・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを確認した上で、視点ごとの目標、主な方策を確認。

イ 具体的には、「ICTの有効活用による主体的・対話的で深い学びの実現」、「1年次からの職業観の育成」などである。

(2) 定時制

ア 全日制同様に、視点ごとの目標、主な方策を確認。

イ 具体的には、「少人数によるきめ細かな個別指導」、「不登校傾向の生徒への支援強化」、「地域ボランティアなどを通じた社会性の育成」などである。

5 令和8年度 学校評価(目標設定)について

【全日制】

(1) 教育課程・学習指導

① 生徒の学習意欲向上と進路希望実現のため、教育課程の見直しを検討し、組織的な授業改善に取り組む。

→「アンケート」で確認。

② 「ICT利活用授業研究推進校」としてICT利活用を促進し、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を実現する。

→ ICT有効活用のスキル向上のため1・3学期に東海大学成川教授による「生徒向けICT講演会」を実施。

→「アンケート」で確認。

(2) 生徒指導・支援

① 自己肯定感を高める機会を教育活動に多く取り入れ、自主性や他者との協働を支援する。

ア「学校行事」や「生徒会活動」を通じて、生徒が「目標」や「役割」を意識し参加できるよう支援する。

イ 委員会活動を充実させ、LHRで生徒間の「話し合い」が積極的
にされるようサポートする。(アンケートで確認)

② すべての生徒が相談しやすい環境を整え、教員向け研修により生徒が自分の問題に向き合い、解決する力を育成する。

→「生徒向け研修会」を実施。面談期間にSC、SSWと連携する。

(3)進路指導・支援

- ① 多様化する進路(特に総合型選抜)に対し、外部機関と連携して総合的探究の時間などで情報提供を行い、生徒の進路実現につなげる。
ア 職員が入試説明会に積極的に参加。
イ 大学進学が増加し、8割以上が年内に進路が決まる。
- ② 「キャリア教育」についての計画を視覚的に明確にする。
→ 1年生のうちから「職業観」つけさせたい。

(4)地域との協働

- ① 「地域貢献活動(清掃)」以外にも「地域との交流」につながる活動をする。
→ 例えば、障がい者スポーツなど
- ② 「情報発信(広報)」として「HPの更新」の頻度を上げる。

(5)学校管理・学校運営

- ① 教育公務員として「事故・不祥事防止」を徹底。
→ 「部活動遠征におけるバス死傷事故」を受け、県からの通知があり、今後、事故の未然防止の観点からマニュアルの見直しを検討する。
- ② 「避難所」としての意識を持ち、地域と協力して防災活動を行うことで、生徒の防災意識向上を図る。

【定時制】

(1)教育課程・学習指導

- ① 個々の生徒の特性や習熟度を踏まえ、個々に目を向けた授業を目指す。
ア 生徒の学習環境の整備とともに、教員も授業互観を通じて研鑽を重ねる。
イ 「チームティーチング」、「個別指導」を引き続き行い、生徒の理解が進むよう配慮する。
- ② 「ICTを活用した授業」について「効果的に活用方法」を共有し、生徒の理解が進むように努める。

(2)生徒指導・支援

- ① 今年度からの募集停止に伴い生徒の人数が減少していくので全日制と連携し生徒が活躍できる場面を作る。
- ② 家庭と連携し、場合によっては就労支援機関に繋げ、生徒が社会的・職業的に自立して社会で必要とされる人材になれるよう支援する。

(3)進路指導・支援

- ① 「ガイダンス」、「就業実習」を充実させ、「キャリア意識」を高め、早期の目標設定ができるよう指導する。

- ② ニーズや適性に合った進路情報を提供し、早い段階で適性に合った進路に繋げる。

(4) 地域との協働

- ① 趣味や特技を生かしたボランティアを実施する。
→具体的には、高齢者向け「デイサービスボランティア」、児童向け「放課後デイボランティア」でジャグリングやボードゲームで交流。
- ② (新入生募集は停止だが)定時制での日々の活動をHPにて広報活動する。

(5) 学校管理・学校運営

- ① 職員の「不祥事防止」として、職員が当事者意識を持って取り組めるよう職員主体の研修を実施。
- ② 「防災教育」の仕組みづくりを検討し、職員だけでなく生徒も、自治体や消防とともに救急救命研修を実施。

6 委員からの主な意見 及び 要望

(1) キャリア教育:

「1年次から職業的な目標を持たせ、何のために学ぶのかを意識させることが重要」「外部講師やOBの協力を得て、**職業の種類**を知る機会を増やしてほしい」との意見。

(2) ICTの活用:

「**デジタルとアナログ**(ノートを取る習慣など)のバランスが大切」「AIを使いこなすと同時に、自ら課題を発見する力を養ってほしい」との提言。

(3) 地域連携・安全面:

自転車の乗車マナー向上に向けた、警察等と連携した指導(スケアード・ストレイト等)の継続が要望。

(4) 定時制の募集停止:

本校定時制がなくなると近隣だと厚木清南まで行かないと定時制はない。どうしようもないことだが残念。

(5) 教職員の働き方改革:

中学校は働き方改革を進めている。高校もぜひ進めてほしい。

7 不祥事ゼロプログラムについて

資料「令和7年度 伊勢原高等学校 不祥事ゼロプログラムの検証等」

「令和8年度 伊勢原高等学校 不祥事ゼロプログラム(全日制)」

「令和8年度 伊勢原高等学校 不祥事ゼロプログラム(定時制)」の確認

第二部 教育活動部会・地域連携部会【16:00～16:30】

1 令和8年3月卒業生「進路状況」

(別紙資料の説明)

【全日制】(第76期卒業生・4月時点)

(1)大学:130名(約55%)→4年制大学進学が増加している。

〈主な進学先〉法政大学(1)、日本大学(3)、専修大学(2)、神奈川大学(12)、
東海大学(15)、玉川大学(1)、神奈川工科大学(12)、
関東学院大学(12)、国士舘大学(9)、産業能率大学(5)など

(2)専門学校:71名(約30%)

→「看護」志望者が進学しやすい教育課程の組み立てを心がけている。

(3)就職:13名(約5%)→インクルーシブ特別募集枠で入学した生徒が中心。

民間企業(12)、公務員(東京消防庁)(1)など *障がい者雇用含む

(4)短期大学:7名(約3%)

(5)その他(進学準備等):16名。

【定時制】(卒業生10名:3年生(4)、4年生(6))

(1)進学:7名 ①大学(3) ②短期大学(1) ③専門学校(3)

(2)就職:1名

(3)その他(進学準備等):2名

2 部活動実績等について

(別紙資料の説明)

【全日制】(主な実績)

(1)ライフル射撃:全国大会 出場(過去最多6名、8月・広島県開催)

関東大会 男女出場(女子ビームピストル個人優勝)

(2)女子バレーボール部:関東大会 出場

(3)仮設ボクシング部:関東大会 出場

(4)男子バスケットボール部:創立以来初、新人戦・関東・インターハイ予選の3大会
すべてで県大会に出場。県ベスト16。

(5)女子サッカー部:県ベスト8。

【定時制】(主な実績)

(1)バドミントン部:北相地区大会 出場(男子個人準優勝、女子個人3位)

→ネパール出身の生徒:県予選 男子個人ベスト12

全国大会 出場予定

(神奈川県代表チーム団体選手として)

- (2) **ボードゲーム部**：放課後デイサービスへの訪問などのボランティア活動
→ 神奈川県立高校の児童・生徒表彰(地域・社会貢献)
- (3) **芸術・文化面など**：
- ① 県央北地区定時制通信制芸術作品展(絵画・工芸部門で金賞)
 - ② 神奈川県高等学校定時制通信制生徒作品展
 - ア 美術部門(神奈川新聞社賞)
 - イ 工芸・写真・手芸部門(優秀賞)など多数受賞。
 - ③ 生徒生活体験発表会：第75回神奈川県大会(優秀賞を受賞)

3 今後の予定

- ・ **文化祭(明鏡祭)**：8月29日(土) 一般公開予定。
昨年度よりさらに内容を充実させ、生徒の主体的な活動を促進します。
- ・ **地域ゴミ拾い(地域貢献活動)**：9月～11月に3回実施予定。
- ・ **第2回学校運営協議会**：11月開催予定。